

優秀賞（国土交通事務次官賞）

△作文（小学生）の部▽

『土砂災害の始まり』

千葉県香取市立小見川中央小学校 四年 高木 桜花

今年もはげしい雨が、日本のいろんな場所でもりました。「ゲリラごう雨」についてのニュースや、土砂災害のひ害があった場所で、記者の人がインタビューをしたりするえいぞうを、毎日おこっているのかなあと思うくらいニュースを見ました。家がくずれたり、土砂におされて流されたりひ害があった地いきの人は、「とつぜんで、すぐくびつくりした。とてもこわかった。」と言っていたので、わたしもこわくなって、家族に「うちはだいじょうぶかな。」と聞きました。そうしたら「うちが土砂で流されるきけんはないよ。」と言いました。でもまだわたしはこわかったので、「自分で土砂災害についてしらべてみよう。」と思いました。まずは、インターネットで土砂災害についてけんさくしてみました。ビデオがあったのでさい生してみると、それは山道でとったビデオでした。今までしずかだった山のしゃ面に生えている木がゆれたりして、しゃ面ごとななめにずれて、すべり台をすべっているときみたいに速く落ちていく様子がうつっていました。そのとき、「うちにいるときはだいじょうぶだけど、山に出かけて、もしもこんな地すべりがあつたら大変だな。」と思いました。

次に、どうしたら土砂災害のひ害にあわないかをしらべました。なぜなら、こわいと思う気持ちもなくらなかつたからです。すると、土砂災害には「土砂災害の始まり」があることが分かりました。雨がふっているのに、川の水がへっている。地面にひびわれができる。がけから水が流れていたり、しゃ面から水がふきでる。ほかにもあつたけど、ぜんぶが不思議で、ふつうはみかけないことばかりです。とくに気になったのは山なりがする。と書いてあつて、山なりって何だろうと思いました。すると「山がゴゴゴと大きな音をたててなること。」と書いてありました。わたしはそれを読んで、「むかし話みたいだな」と思いました。むかし話ではよく、そういう大きな音はオニのさけび声と言われているからです。むかしの人は、子どもに、「あれはオニの声だから、あの音が聞こえたらぜったい山へ行っちゃいけないよ。」と教えていたりしたのかなあと思いました。そうやってむかしから今につたわってきた「ぼうさい」のことを、わたしも家族や友だちに、ふだんごはんを食べているときや、遊んでいるときに話そうと思いました。

土砂災害について書いてあるインターネットサイトに「ハザードマップ」というものがあると書いてあり、家族に調べてもらいました。ハザードマップとは、自然災害がおこすひ害を予想して、ひ害がおきそうな場所とそのはんいを地図にしたものだそうです。ハザードマップがあればひなんしてもいい安全な場所や、あぶない場所がすぐ分かるそうです。今まで、こう水がおこったときのハザードマップしか見たことがなかったので「土砂災害ハザードマップがあるのか。」と思い、くわしく見てみました。私の住む香取市ではがけくずれがおきるとよそうされている場所が七十四かしもあると書いてあつてすごおどろきました。しばらく家族で見ていると「ふだん出かけるときに通る道も緑でぬつてあるよ。」とお母さんがおどろいて指さしていました。わたしの家の近くには山がありません。だから今までは、土砂災害のニュースを見てもこわがるだけでした。でも、作文を書くためにしらべた土砂災害でしたが、わたしたち一人一人がふだんから知っておくことで、ひ害を少なくできればいいなと思いました。